

# 月刊 さいとう健けん

発行所: 自由民主党本部 定価1部110円(税込) 毎週火曜日発行  
住所: 〒100-8910 東京都千代田区永田町1-11-23  
電話: 03-3581-6211(代表) ホームページ: <http://www.jimin.jp/>

## 《 ミニプロフィール 》

昭和34年、小さな写真屋に生まれる。  
大学時代は、ハンドボール部のキャプテンとして活躍。  
零細企業に育ったこともあり、中小企業を担当する通商産業省に入省。  
日米交渉や道路公団民営化、地方行政(埼玉県副知事に outward)などに携わる。  
平成18年衆議院千葉七区補欠選挙にて公募により選ばれるも、惜敗。  
平成21年衆議院総選挙において、初当選。5期目。環境大臣政務官、  
党副幹事長、党農林部会長、農林水産大臣、予算委員会理事、党総務  
会長代理、法務大臣を経て、現在、経済産業大臣として重責を担う。  
[趣味] ハンドボール、カラオケ、読書、映画  
[好きな食べ物] ラーメン、焼肉(特にカルビとハラミ)  
[尊敬する人物] 高杉晋作、原敬、鈴木貫太郎



やっぱり、  
この男に!

3月号  
令和6年3月10日発行

## 「国会論戦から」

【日本維新の会 藤田文武幹事長】 今日には齋藤経産大臣も来ていただいているので、ちょっと議論したいと思いますが、私は齋藤大臣が出されているコラム集が大好きで、「三十年、大和民族の遺伝子」というのが、私は、他党でありながら、先輩として非常に感銘を受けました。

どうい内容かという、今日は三十年スパンの話が結構出てきています、政治改革大綱も35年前ですから。そして、冒頭、三十年という月日は日本の社会を変質させるには十分な時間である、そして、そのことをその時代に生きている人々はほとんど認識できないようだと言われますが、この内容で私がすごく共感したのは、平成の三十年間が終わり令和の時代が動き始めたという章がありまして、平成の三十年は宿題をやらなかった夏休みだと表現されました。つまり、本来やるべき改革をどんどん先送りにしてきて三十年たってしまい、そして、休みが開けて二学期になったときにあたふたしている日本が令和なんじゃないかと危惧される、そういうお話でした。私は非常に共感いたしました。これほどまでに改革志向の方が自民党にもいらっしゃるんだと思いましたが、今日は各論を本当はやりたかったんですけども、様々やらないといけないと思います。

今、産業政策を所管する大臣として、この三十年を振り返ってみて、日本は本来どんな改革をやるべきだったのか、そして今から何をやるべきなのか、お考えがあったらいただけますか。

【齋藤健 経済産業大臣】 まず、私の冊子について言及していただきまして、感謝を申し上げたいと思います。ただ、この冊子は、真剣には書きましたが、一議員のときに天真らんまん書いたものでありまして、今、経産大臣として御答弁するには一定の制約があると思いますが、ただ、本質的なことはお話しできるのかなと思っています。

私は、日本の長い歴史を見てみた場合に、平時において改革をするという点におきましては、先手を打って思い切って改革をするというのがどうも弱くて、改革が後手に回ってしまうという特徴があるように思えてなりません。その理由については冊子をお読みいただくしかないんですが、私が経済産業省で若い頃に経験したこと一言触れたいと思います。

1980年代から90年代半ば頃まで、経済的に台頭する日本を何とか抑え込みたいということで、アメリカは必死でありました。1985年にはプラザ合意ということで、日本の経常収支の黒字を縮小するためには為替介入しかないということで、大胆な為替介入によって一気に円高にして、経常収支の日本の黒字を、言葉は悪いですが、何とか痛めつけてやれというような印象で私は受け止めておりましたし、同じ1985年にヒューレット・パッカートのヤング会長がヤングレポートというのを出しまして、この中では、いかに日本をやっつけるかということで、経済界、産業界が総力を挙げてレポートを作ったと。それから、当時は、例えばMITというアカデミズムも、日本のトヨタの強みは何なんだ、どうしたらトヨタに勝てるんだということをアカデミズムまで真剣に検討して、それがどンドンどンドン日米交渉の中で我々はプレッシャーをかけられ続けるということを経験してまいりました。その後、日本は逆の立場になって、中国などの新興国の今度は追い上げを受ける立場になったわけです。

(裏面へつづく)



予算委員会・経済産業委員会で連日答弁。

この三十年間、私は、かつてのアメリカが感じて、政界や経済界やアカデミズムが必死の危機感を感じて、日本が総力を挙げてかつてのアメリカのように対峙してきたとはどうしても思えない。つまり、危機感がなかったわけではないんですが、それが微温的なものであったのではないかと、だから物事は何事も思うようには進まなかった面があるのではないかと思います。

ただ、私も政治家でありますので、ではどうするかということではありますが、今、経済産業大臣という立場になりまして、国内経済に久方ぶりの上向きの潮目の変化、これが生まれています。私にできることは、この機に一気に進められるものは進めたいということに尽きます。マクロ経済的には、まさに賃金と物価と成長の好循環を何としても実現したいということでありまして、産業政策的には、経済産業政策の新機軸と銘打って、急速な技術革新が進む中で成長のエンジンとなり得るGXやDXを思い切って推進していきたいと思います。そして、将来、需要が激増すると思われる半導体分野につきましては、かつてない思い切った政策支援を行って、半導体産業にかつての栄光を取り戻したいと思っています。

また、企業構造の在り方まで議論していく必要があると思っています。チャレンジ精神を発揮してイノベーションを担ってくれるスタートアップをもっと大きく育てていくには何が必要か、中堅企業については、今国会に提出している産業競争力強化法で初めて定義しますが、こうした成長志向の強い企業を後押ししていく方策は何なのかなど、これまでエコシステムが弱かったのではないかとと思われる分野につきましても手を加えて、成長に貢献してもらいたいと思っています。

成長の牽引役、良質な雇用創出の担い手が育成されることで初めて、私は、前向きな形で個人の労働移動円滑化も進むし、企業の新陳代謝も進むと考えています。

話し始めると2時間ぐらいかかりますのでこの辺にしたいと思いますが、簡単なことではないですけども、今がまさに三十年たって二学期が始まるということで正念場だと思っていますので、強い覚悟を持って取り組んでいきたいと思っていますので、藤田幹事長にも是非御協力いただきたいと思っています。

(令和6年3月1日衆議院予算委員会議事録速報(未定稿)より抜粋)

## 能登の被災地を視察して

去る27日の土曜日、能登の被災地を、経済産業大臣として視察しました。

25日に取りまとめた被災された方々へのなりわい再建対策を、さいとう健から直接説明し、現地の要望をうかがうためです。

胸を打たれました。能登の方々の頑張りに。

有名な七尾市の和倉温泉。元日のお客さんは約千名。そこに地震が襲いました。旅館の方々は自らも被災しているにもかかわらず、最後までお客ファーストを貫き、2日に無事に被災地から帰したと。

我々が用意している対策は、建物などへの支援策であります。守るべきものは建物だけではなく、お客様ファーストの「旅館魂」みたいなものも守り続けなければならないんだと、しみじみ思いました。

近くの一本杉通りにある和ろうそくの老舗。壊滅的な被害を受けましたが、直ちに再建を決意し、クラウドファンディングで資金を集めた若者。代々続く老舗を自分が途切れさせては絶対にならないと。

その近くにある醤油屋さん。建物がやられたけど、奇跡的に醤油樽は残った。あまりの被害の大きさに再建を諦めかけたが、皆の応援でやる気になったと。なんと能登で生産する小麦と大豆で醤油を作ると。その能登愛の深さに胸を打たれました。私と別れた後、こういうメッセージをいただきました。

「大臣にお会いできたこと、涙が出るほど嬉しかった。時に復興を諦めそうになるが、今日の経験を糧に、引き続き頑張っていきたいと思います。」

私の方こそ、涙が出ます。

輪島塗も壊滅的。工房はほとんどやられ、職人さんたちは被災されて散り散り。再建できるかどうかの瀬戸際です。さいとう健は、輪島塗は世界最高の漆器だと思っています。この日本にしかない芸術とも言える伝統工芸を、今、途絶えさせてはならないと、強く思いました。

生の声を政策に活かしていかなばと、改めて決意する一日でした。(令和6年1月29日メルマガ配信)



倒壊が激しい被災地の現場を視察。



被災自治体の要望をヒアリング。

メルマガ **さいとう健**

名前・住所の登録不要。

月刊さいとう健では伝えきれない内容満載。

返信すれば匿名で意見を伝えられます。

<http://www.saito-ken.jp/info/melmaga.html>



討議資料

～ 後援会入会はコチラまで ～

さいとう健 後援会事務所(流山おおたかの森駅 北口すぐ)  
〒270-0119 流山市おおたかの森北1-5-2セレーナおおたかの森2階  
TEL:04-7190-5271 FAX:04-7190-5272 E-mail: info@saito-ken.jp  
さいとう健 国会事務所  
〒100-8981 千代田区永田町2-2-1衆議院第一議員会館822号室  
TEL:03-3508-7221 FAX:03-3508-3221